

林業研修生の炭焼き作業が始まりました。

2014年1月9日から日南町新屋地区の環境林にて、林業研修生による炭焼き作業が始まりました。

かつて日南町でも、薪炭は日常の生活を支え、また、たたら製鉄の原材料としても使われる重要なエネルギー源であり産業でもありました。現在では、たたら火が消えてしまい、燃料革命により、薪炭を使用する機会もめっきり減ってしまいましたが、その日南町の薪炭文化と歴史を次世代に伝え、搬出した木材の利用法の一つを学ぶ為に炭焼き体験を行っています。

環境林より切り出した丸太を薪割機で適度な太さにし、炭材を窯の中に並べていきます。それほど大きくない環境林の窯でも、小型運搬車7-8台分の炭材が搬入されます。完成時の炭出し量は1/6位になるそうです。作業は冷たい雪の中で行われていました。

煙の温度が250度ぐらいになり、発熱分解反応が起こり出すまで、窯の様子を注意深く見守ります。窯の温度が目標の温度に達し、煙が無色になったところで空気を遮断し、窯の内部で蒸し焼きにして完成を待ちます。完成するまで、火入れから一週間近くかかります。気の長い作業になります。

完成した木炭は燃料用としての他に土壌改良材としても使われます。

日南町では、今年も農林業研修生の募集を行っています。町内外からの沢山の活力が日南の町と山の賑わいになることを願っています。

編集部よりお知らせ：

「日南の森林だより」2014年1月号は特集号として作成いたしました関係で、次号の発行は2月5日頃となります。ご了承願います。



日南町の素材生産量は年間10万立方メートルに迫ってきています。しかし、1年間の蓄積量は25万立方メートルと推計されています。これで満足するわけにはなりません。1年間の蓄積量を超えるところまで、引き上げることが私たちの責務です。次は、「年間20万立方メートル生産」を目標とすることになります。今年はそのスタートの年です。その目標を達成するためには、私たち森林・林業・木材産業関係者が知恵を絞り、汗を流し、切磋琢磨し、あらゆる努力を重ねていく必要があります。先輩に習い、この地域に住む私たちが、森林を守り育てることに力を注がなければと、あらためて考えているところです。

NPO法人フォレストアカデミージャパン 理事長 狩野 宏

